



埼玉県舞踊協会
NO.32

埼玉県舞踊協会ニュース

Saitama Dance Association

発行所：埼玉県舞踊協会
発行者：藤井 利子
埼玉県さいたま市浦和区東仲町 1-16 鳥昇ビル 3F
TEL:048-882-7530 FAX:048-882-7549

【インタビュー】

埼玉県舞踊協会会長 藤井利子

2011年度は、埼玉県舞踊協会創立45周年を迎え、6月の総会では、自粛の意もあられ、出席会員でささやかな祝賀の一時を過ごしました。その折、創立以来45年間御尽力下さいました10氏と、長年理事として、副会長として御尽力下さいました3氏に、協会一同より感謝状を贈呈させていただきました。年度末には、35周年発行「舞芸」の、その後10年間の記録を発行する準備に入っております。夏の埼玉全国舞踊コンクール、秋のステージ1、冬のダンスセッション、春のフェスティバル。その間を縫ってコレオグラファーの目、ジュニアフェスタ等、今年も事業の充実を計る為、理事会・各事業部会を重ね、企画運営を煮詰めております。3月11日の大震災により、特にコンクールでは、参加数の制限(計画停電を想定)、プログラム売上金を義援金に計上する等、気のもめる特別な運営となりました。津波で家を流される等、被災された4名の舞踊家個人と、5県の舞踊協会には、埼玉県舞踊協会会員一同として、8月18日見舞金を送付させていただきました。事が出来ませんでした。元氣を取り戻して戴く応援歌となればと、心より祈念いたしております。第44回埼玉全国舞踊コンクールは、沢山の方々の御支援、御協力のおかげにより、素晴らしい成果を揚げ終りました。御報告と、皆々様に心からの感謝を申し上げます。

9月30日「ステージ1」は、舞踊家としての活動を目指す方々の、自由な発想・創造と、作品表現を熱心したダンスを登壇する貴重な体験の場として、次代育成に力を注いでいる公演です。悩みながら、前向きに自己を切り開いて下さる事を願い、楽しみにいたしております。最後にになりましたが、会員の皆様の御健康をお祈り申し上げます。

第44回 埼玉全国舞踊コンクール

7月22日～29日
さいたま市文化センター
大ホール・小ホール

主催◎埼玉県舞踊協会 共催◎(財)さいたま市文化振興事業団
後援◎埼玉県/埼玉県議会/埼玉県教育委員会/埼玉県文化団体連合会/朝日新聞さいたま総局/埼玉新聞社
東京新聞さいたま支局/毎日新聞さいたま支局/読売新聞さいたま支局/テレビ埼玉/チャコット(株)
(社)現代舞踊協会/(公社)日本バレエ協会/(財)橘秋子記念財団

クラシックバレエ

- 第1位 橘秋子賞・県知事賞・藤井公賞 木暮絵梨子
- 第2位の1 県議会議長賞 中ノ目知章
- 第2位の2 県教育長賞 池本ひかり
- 第3位の1 県文化団体連合会会長賞 波多野渚砂
- 第3位の2 県文化団体連合会会長賞 浮島 優
- 第3位の3 県文化団体連合会会長賞 安西 健壘
朝日新聞社賞 中村 友子
埼玉新聞社賞 仙波 幸恵
テレビ埼玉賞 石川 龍之介
東京新聞賞 鈴木 瑞香
毎日新聞社賞 石向 佳那子
読売新聞社賞 佐藤 優美
チャコット賞 久世 めぐみ

クラシックバレエ 1部 (成人)



木暮絵梨子

長い間挑戦し成長させていただきましたこの歴史あるコンクールで受賞出来ました事大変嬉しく思っています。支えて下さった方々に感謝しより深みのある質の高い踊りを目指しこれからも励んでまいりたいと思っております。

- 第1位 橘秋子賞・県知事賞・津田郁子賞 五十嵐愛梨
- 第2位の1 県議会議長賞 二山治雄
- 第2位の2 県教育長賞 渡邊 綾
- 第3位の1 県文化団体連合会会長賞 加藤菜々海
- 第3位の2 県文化団体連合会会長賞 直塚美穂
- 第3位の3 県文化団体連合会会長賞 柳澤実佳
朝日新聞社賞 翠川 栞
埼玉新聞社賞 近藤合欽
テレビ埼玉賞 石原朱莉
東京新聞賞 西尾美香
毎日新聞社賞 秋葉みちる
読売新聞社賞 菅井円加
チャコット賞 鈴木木詠

クラシックバレエ ジュニアの部



五十嵐愛梨

今回、このような賞をいただくことができ、とてもうれしく思っています。黒鳥はテクニクや表現が難しく、まだ出来ていないのもっと練習していきたいです。これからも周りの人への感謝を忘れず踊ってまいります。

- 第1位 橘秋子賞・県知事賞・津田郁子賞 武田侑子
- 第2位の1 県議会議長賞 中島映理子
- 第2位の2 県教育長賞 栗原ゆう
- 第3位の1 県文化団体連合会会長賞 竹津菜奈
- 第3位の2 県文化団体連合会会長賞 中野伶美
- 第3位の3 県文化団体連合会会長賞 柴田実樹
朝日新聞社賞 宮澤華奈絵
埼玉新聞社賞 小川理恵
テレビ埼玉賞 住山美桜
東京新聞賞 戸澤まのか
毎日新聞社賞 土川世莉奈
読売新聞社賞 湯本沙季
チャコット賞 スターク玖麗

クラシックバレエ 2部 (児童)



武田侑子

ジゼルはずっとおこがれていた曲です。練習の時からあまり好きでいなくて、テクニクの面では反省点が多いですが、気持ちよくおどれました。結果にはおどろいていますが、先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

評

クラシックバレエ部門

舞踊評論家 うらわまこと

大震災を乗り越えて立派な運営内容に敬意クラシックバレエ1部 ジュニア部

3月に発生した大震災は、舞踊界にも甚大な被害をもたらしました。亡くなられた方もおられますし、自宅やスタジオが被災、また原発事故で心ならずも避難しなければならなくなった方も。また活動もいろいろと影響を受け、コンクールもいくつかが中止となりました。そのなかで2番目に長い歴史をもち、規模でもトップを争う埼玉全国舞踊コンクールが、いろいろな困難を乗り越えて開催されたことは、舞踊界、そして各地域に大きな勇気を与えました。ご関係者の努力に深い敬意を表します。いろいろな理由で参加者が少し減りましたが、それでも全体で1350名を超え、被災地からも多数の参加をえたことは、大変に嬉しいことです。

クラシックバレエ部門は全3部821名、うち1部(成人)82名、ジュニア338名。1部は決選進出40名、とくに男性が参加した。これはジュニアも同じ、男性参加11、決選7名は比率からみてももう少しほしいところ。男性は最後にまとめて演技することになって、演技も審査もやりやすくなりましたが、さらに男女別に順位を付けるようにすると、参加もしやすく、男女の公平さも高まります。賞品の準備など大変だと思いますが、検討してみたらどうでしょうか。

「1部、成人の部」この部はプロ予備軍、あるいはすでにプロ。たしかに決選進出者は、基礎や技術レベルはある程度、そろってきています。この場合でも、素直にしっかりと、国内外の大カンパニーのコール・ド・バレエ候補という視点で、個人的なアピールポイントをもっているものという視点があります。いずれの場合にも作品の解釈、表現は重要で、もちろん、実際には総合的に評価するわけですが、全体として中庸にまとまっているダンサーが多いように感じました。

評

クラシックバレエ部門

舞踊評論家 伊地知優子

接戦の上位では木暮絵梨子、池本ひかり、浮島優など、堅実にまとめたタイプが多いなかで、波多野渚砂はみごとなスタイルで多野渚砂はみごとなスタイルでアピール派、中村友子も同様。男性では丁寧なまとめた中ノ目知章、見せ場を心得た安西健壘。

「ジュニア部」この年代は伸び盛り、身体条件にも恵まれ、全体に勢いがあります。一方体型も変わりやすい時期。ただ決選進出者は、ほとんどがスタイルを維持していました。

出来上がっているもの、伸びしろのあるもの、さまざまですが、若々しいしなやかさがこの部の魅力。全体に高いレベルの中、ジュニアらしい伸びやかさをもって好感のもてる五十嵐愛梨。続く渡邊綾、加藤菜々海はまとめた方のうまさ。見事なスタイルの直塚美穂、秋葉みちるも華があり、ともに印象的。菅井円加はジュニアを超えています。二山治雄は技術で見せ場をつくりましたが、男性は一長一短、一層の努力を期待したいところです。

今回の、私の審査はクラシックバレエ部門2部の決選でした。東北震災の影響で、会期中に停電もあり得るとの予測から、人数を例年より減らしたとのことですが、決選だけに、さすがに技術的なレベルは高く、容姿も申し分のない子が今年も少なくなかったことは、幸いでした。

クラシックバレエは基礎だけで10年かかるといわれ、小学生の間は難しい技を獲得することより、基礎の完成度を高めることの方が大切ですから、成長の段階に応じた技術、表現を獲得して行くのが理想です。子供には「子供の表現」というものがあり、日本には児童舞踊という素晴らしい伝統があるのですが、クラシックバレエの名作には「子供が踊る作品」がほとんどありません。海外のコンクールで児童部がない理由のひとつがここにあります。

評

クラシックバレエ部門

舞踊評論家 伊地知優子

台に立つ意欲が非常に旺盛で、どのコンクールも小学生と中学生の参加がほぼ最多という賑わいですが、それは悪いことではありませんが、問題は大人の踊りを大人に教わったとりに子供が踊っている点です。優れた振付家が子供の精神的、肉体的成長に合った作品、名作をどんどん送り出してくれば、子供達は、みずから感性で表現力を磨き、思春期には思春期を自然に表現出来、大人になったときには、内から湧き出る人物像が自然に表現できるようになるのでは無いでしょうか？成長に応じた感性と知性の発育こそが、優れた表現力とエネルギーを生み出すはずです。子供にしかできない表現を、その時期に思いっきりやらせておくことを、コンクールが手助けできればどうにか？大人の真似ではない「子供の表現」を引き出す優れたバレエ小品を、心ある作家にどんどん生み出してほしい、と思うことしきりです。

来年は、彩の国さいたま芸術劇場・小ホールでの開催となりますが、今回出演・振付をした皆さん、特にバレエ関係の皆さん等、今回とは一寸違った空間に挑戦してみませんか。

第38回 ステージ1

さいたま市文化センター・小ホールにおいて華やかに行われた「ステージ1」。

優雅なダンスモダンダンスあり、ポップなダンス。所作バレエと、それぞれ意欲的かつ個性的な作品が20曲。開演からは暖かい拍手の客席からは暖かい拍手が続き、終演後は皆さん満足して帰られたようです。

今回は、ダンサーとして活躍している人が後輩に振り付けをした曲もあり、ステージ1の「新人育成」の目的が広がったことを嬉しく思います。

来年は、彩の国さいたま芸術劇場・小ホールでの開催となりますが、今回出演・振付をした皆さん、特にバレエ関係の皆さん等、今回とは一寸違った空間に挑戦してみませんか。



第38回 ステージ1
さいたま市文化センター 小ホール
2011年9月30日(金)

第44回 埼玉全国舞踊コンクール

実行委員長 矢野美登里

このたびのコンクールは、東日本大震災によって種々考慮した結果開催いたしました、計画停電や例年と違った悪条件の中、毎日無事を祈っての一週間でしたが、開催したこと意義を感じたコンクールであり、44回目!!忘れることのできないコンクールとなりました、ご参加くださいました方々に感謝いたします。

モダンダンス

モダンダンス 1部 (成人)



幅田彩加

この度、光栄なる賞を頂くことが出来、大変嬉しく思います。受賞出来たのは、今まで出会った沢山の方々のおかげです。12月より、海外研修で日本を離れますが、感謝の気持ちを忘れず、精進していきたいと思っております。

モダンダンス ジュニアの部



川合十夢

この度は、このような素晴らしい賞を受賞させていただきとても光栄に思っております。そして、指導して下さった母である先生にとっても感謝しています。今後もこの賞を励みに、ダンサーとして頑張っていきます。

モダンダンス 2部 (児童)



細井瑞希

内田彩月

本郷仁珠

この度は、素晴らしい賞を頂きありがとうございます。私達はカッパになりきって三人で揃うように頑張っていました。一位と聞いた時はとてもうれしかったです。指導して下さいました先生方のおかげです。これからも頑張ります。

- 第1位 橋秋子賞・県知事賞・藤井公賞 幅田彩加
- 第2位の1 県議会議長賞 三田瑠子
- 第2位の2 県教育長賞 森田美雪
- 第3位の1 県文化団体連合会会長賞 鈴木いづみ
- 第3位の2 県文化団体連合会会長賞 木場裕紀
- 第3位の3 県文化団体連合会会長賞 津田ゆず香
- 朝日新聞社賞 海保文江
- 埼玉新聞社賞 竹中優花
- テレビ埼玉賞 山本 裕
- 東京新聞賞 伊東由里
- 毎日新聞賞 川合杏奈
- 読売新聞社賞 水野多麻紀
- チャコット賞 北野友華

- 第1位 橋秋子賞・県知事賞・津田郁子賞 川合十夢
- 第2位の1 県議会議長賞 千田沙也加
- 第2位の2 県教育長賞 久保愛梨
- 第3位の1 県文化団体連合会会長賞 渡辺はるか
- 第3位の2 県文化団体連合会会長賞 宮本悠加
- 第3位の3 県文化団体連合会会長賞 脇坂優海香
- 朝日新聞社賞 岸野奈央
- 埼玉新聞社賞 古川真央
- テレビ埼玉賞 名越晴奈
- 東京新聞賞 原口美沙
- 毎日新聞社賞 長谷部明絵
- 読売新聞社賞 薄田真美子
- チャコット賞 阿久津理央

- 第1位 橋秋子賞・県知事賞・津田郁子賞 細井瑞希
- 第2位の1 県議会議長賞 内田彩月
- 第2位の2 県教育長賞 本郷仁珠
- 第3位の1 県文化団体連合会会長賞 伊藤未唯
- 第3位の2 県文化団体連合会会長賞 宇野鈴音
- 第3位の3 県文化団体連合会会長賞 名雲有希
- 朝日新聞社賞 佐藤うらら
- 埼玉新聞社賞 久保田祥貴
- テレビ埼玉賞 タルマン磨野
- 東京新聞賞 西島実里
- 毎日新聞社賞 菅野 幸
- 読売新聞社賞 菅野 真緒
- チャコット賞 矢野真央・峰松佑衣・立石海音・田嶋心夏・梅本裕衣・藤井 颯

評 モダンダンス部門

舞踊評論家 山野博夫

「東北大震災が肉体に及ぼしたもの」

埼玉全国舞踊コンクールの第1回は、1968年8月24日に大宮商工会館大ホールで行われた。当時は昭和元禄いさなぎ景気の頂点の頃で、日本全体に活力がみなぎっていた。それから44年目の2011年は、長い不況のさなかに東北大震災が起った年として、後世に記憶されることになるだろう。モダンの審査員室で今年の出場者について感想を求められた時に、私は「さきに『並んだ作品に、大震災の影響が少しも見えないのは、今の状況に敏感に反応して作品を創作すべき現代舞踊としては、問題なのではないか』と答えた。

しかしこの意見を、今では全面的に変えようと思っている。舞踊という人間の肉体全部を使う芸術は、主に頭で考え出す文学などの芸術分野とは反応が違うということに気付かされたからだ。肉体が反応しきれなくなると、それに伴って作品がまったく出てこなくなるといふ現象が、1923年9月1日に起こった関東大震災の時に、パフォーミング・アーツ全体の分野で起こっていた。モダンのジュニアの部85曲と成人の部50曲の決選に出場した作品を審査して、人間のからだはそんなに早く切り替えが効かないものなのだということが、私は気付かされた。

評 モダンダンス部門

舞踊評論家 立木燦子

新人と目される人たちは誰も上位に入らなかつた。いろいろな理由があると思うけれども、彼らの鍛えられた肉体は、大震災の影響をより深いところで、より大きなものとして受け止めていた。こういう結果に終わったのだと私は理解した。ショックを肉体が咀嚼して、プラスに転ずるには、それなりの時間が必要なのであり、それが舞踊なのだ。来年を期待したい。

別な評価を報告したい。まず、第1位となつた『カッパ何様オレ様』(津内絹子振付・指導は、三人の出演者(細井瑞希、内田彩月、本郷仁珠)の澗刺とした表現に街がなく、独特の説得力を持つ舞台となつていた。カッパという架空の存在に想いを馳せ、床を転がり、全身を使って跳ね回る姿には児童舞踊ならではの詩情が生まれて、今持っている力をすべて出している。嬉し。

第2位の『しん・深ト...』(原島マヤ振付)は、大柄の女の子(伊藤未唯)がマラーの曲を背景に薄墨の衣裳を身にまといしなやかに踊っていく。作品の奥に感じさせる哀愁は何かと観る者を誘う深みのあるソロである。同じく2位の『Wings of Love』(翼をください) (青木りえ振付)は女性ヴォーカルにのって憧れを踊る。抽象的な主題からやわらかな叙情性を感じさせた素直な表現力がい。3位はそれぞれ個性が出た三本。『明日への道標』(南雲有希、蛭子奈緒美振付)は、よくテクニクをこなして踊る達者な表現が印象的。『かしの見た夢』(佐藤うらら、伊藤ひとみ振付)は、後ろ向きで登場、よじれたり、捻ったりとテフオルムを駆使した振付をよくこなした。シニールな感覚さえ感じさせる独自の表現に仕上げている。『微生物バロック』(久保田祥貴、服部明子)は、メタリックなノイズの響く少年が踊る。構成、主題への視線が面白く、難しいテーマの振付を握り下げて個性豊かな作品に仕上げている。

感謝状に思いを馳せて

井村恭子

すいぶんの年月を過ごしました。45年もです。協会創立の頃の事が話題になると、とても懐かしく、まるで木もれ陽の風景を見るようです。藤井公先生から協会設立についてのお誘いを受け、浦和の喫茶店に集まりました。膝を揃えて背筋を伸ばして、ともかく緊張してお仲間に入れていただきました。結成されてその年に、発足記念公演が催され、一年後には驚異のコンクールが始まりました。コンクールは「東京新聞」と云う中で舞踊家が立ち上げ、世の中を変えたのですから、これは事件であったと思います。でもこのコンクールのパイオニアも初めは手創りでした。モノ一紙を何枚も貼り合せて集計表を作り、読み上げられた点数を5・6人で一斉に計算機を叩いて記入し、後半に差し掛かると入賞競争が見えてきます。こちらのデモンションも上がり、つい声が大きくなって、何しろ密室での集計ではありませんでしたから「聞こえるわよ」と叱られながら、協会員全員での大仕事でした。集計表を床いっばいに広げて、しゃがみ込んだり、膝をついて這うようにして点数を書き込み、こんな作業が将来に夢を賭け、何の利益も打算も持たない藤井公先生をはじめ、諸リーダー先輩方の情熱やお人柄と合体して、協会の成り行く方向は既に決っていたのだなあと思えます。振り返って自分の勝手を云ってしましますが、一身上の都合はおこがましくも、協会の行事に余り参加出来ず、今となっては申し訳なく思っています、そして残念にも思っています、それでも感謝状を頂戴してしまいました、恐縮の限りです。総会の会場の雰囲気は花が咲いたようでした。観望ある次世代はもう走り始めていましたし、埼玉県舞踊協会はいつも「こう」です。明るく、優しい——、私が今さら出来る事などありませんが、一番身近な活動として、サポーターの役目くらいはと思ひ直しました。その日帰ってから35周年の記念誌を手に入れました、立派な歴史が刻まれていました。それから10年が過ぎていました。若い人達が心を弾ませてこそ、すべてが弾むのだと思います。新体制・会長 利子先生大丈夫!! 協会のこれからの人達は甚だ自然体で伸びやか、と、私には見えましたから。改めて、こんなに長くお仲間にしていただいて感謝致します。

伸びゆく彩の国さいたまの子どもたちによる 第45回 バレエ・モダンダンスフェスティバル

《会場》川口リリアメインホール
 ■Aプロ 2012.3.3(土) 17:00開演予定 ■Bプロ 2012.3.4(日) 15:00開演予定

■Aプロ 第44回埼玉全国舞踊コンクール上位入賞者披露(二部児童) 中村友美・上田仁美モダンバレエ 藤井舞踊研究所(藤井利子・上原尚美・藤井 香) 山路瑠美子バレエ研究所 新座教室 すまきよこモダンバレエ教室 マヤバレエスタジオ(原島マヤ) 山本教子バレエスタジオ 吉田久木子モダンバレエ研究所 窪内絹子モダンバレエ研究所

■Bプロ 第44回埼玉全国舞踊コンクール上位入賞者披露(ジュニア部) 井上美代子バレエスタジオ 和加技舞踊研究所(小林和加枝) 谷 乃梨絵モダンダンススタジオ ブラッサム(白石喜久枝) HAGAバレエアカデミー (芳賀のぞみ) 細川初枝モダンバレエスタジオ 穴水かおりバレエスタジオ 川名今朝美モダンバレエスタジオ

彩の国ダンスセッション2012

2012.1.31(火)・2.3(金)~5(日) 彩の国さいたま芸術劇場
 主催:埼玉県舞踊協会/提携:(公財)埼玉県芸術文化振興財団

日韓 アジアの華麗なる競演 **アジアの熱い風**
 2月5日(日) 17:00開演 大ホール 入場料:5,000円(全席自由)

レクイエムから未来へ **駆ける 翔る 架ける!!**
 一歌は是を舞、踊りは心を歌ったー
 2月4日(土) 18:00開演 小ホール 入場料:3,000円(全席自由)

■コレオグラファーの目 vol.9 ~美術家・浅見俊哉氏との異色のコラボレーション~
 2月3日(金) 18:00~19:00 / 2月4日(土) 16:00~17:00 / 情報プラザ周辺(無料)

■講演「演出家の目」~演出発想の裏側を探ってみよう!~ 講師:斎藤謙一
 2月3日(金) 19:30~20:30 / 映像ホール 受講料:1,000円

■ピラティス講習会 ~まだまだあるよ。ダンスと身体の新世界!~
 (A) 1月31日(火) 18:00~19:30 / (B) 2月4日(土) 10:00~11:30 / 大練習室(地下2階) 受講料:1レッスン2,000円

■キャラクターダンス ~まだまだあるよ。ダンスと身体の新世界!~
 (C) 1月31日(火) 19:45~21:15 / (D) 2月4日(土) 11:45~13:15 / 大練習室(地下2階) 受講料:1レッスン2,000円

チケット及び受講のお申込み
 ◆ファックスでお申込み⇒お名前、ご住所、ご希望のチケットと枚数を 048-866-7366 (藤井)へ送信
 ◆メールでお申込み⇒お名前、ご住所、ご希望のチケットと枚数を dancession2012@gmail.com へ送信

協会員催し物のご案内

2011年10月~2012年4月

おみやや洋舞協会員第8回公演 《有料》
 ◎11/13(日) 14:00
 ◎048(645)65551 アミ子(多摩) 藤井

第61回 間瀬バレエスタジオ発表会
 ◎11/23(水祝) 14:00 県立熊谷会館
 ◎048(521)3500 間瀬桂子

市南芸術空間プロデュース 第2回公演
 ライフイズダンス vol.11 《有料》
 ◎11/26(土) 18:00
 ◎048(837)25507 市川華代

青美バレエスタジオ第16回発表会
 ◎3/31(土) 時間未定
 ◎090(885)66209 柘沢寿美

山崎麻矢モダンバレエスタジオ
 ◎4/22(日) 2012年発表会
 ◎049(234)3947 山崎麻矢

◎編集後記
 東日本大震災、猛暑、台風と、大きな災害を被った日本、新しい国づくりに進んでいます。埼玉県舞踊協会では催し物を通して、皆様に協力をいただきました。一日も早く元気に、楽しくダンスが出来ますように、と、願っております。

広報部 笠原千珂子 山本教子